



常議員立候補のご挨拶

井出正威

このたび、PA会からのご推薦をいただき、令和7年度の日本弁理士会役員定時選挙において常議員に立候補させて頂くことになりました井出正威でございます。どうぞよろしくお願いたします。立候補にあたり、簡単に自己紹介させていただきます。

私は、1981年に大学卒業後直ちに建築材料関係の企業に技術職として就職しましたが、PA会の三宅正夫先生が主宰されている三宅特許事務所の秘書をしていた私の叔母の勧めもあり、弁理士を目指すことになりました。その後、1984年に弁理士試験に合格し、三宅特許事務所に弁理士として勤務することになり、同時にPA会にも入会致しました。三宅先生は大阪大学醸造学科の出身で、化学・バイオ関係の国内・海外案件を数多く手掛けておられたため、この関係の仕事に対応するために、2年間出身大学の修士課程に通い、昼は研究室、夕方からは事務所に戻り仕事をこなしながら、遺伝子工学等の生物化学の知識を習得し、その後の仕事の基盤ともなりました。そして、1995年に独立し、井出国際特許事務所を開業し、現在に至ります。なお、三宅先生は、残念ながら昨年末に弁理士登録を抹消された後、本年1月に104歳でご逝去されました。

先述のとおり、PA会には弁理士登録とほぼ同時に入会しておりましたが、独立開業した時分に、武蔵小金井駅の最寄りに住んでおり、近くにPA会の重鎮でその後弁理士会会長になられた故田中正治先生がお住まいで、朝の通勤途中、武蔵小金井駅に向かうバスや中央線で良くお会いしました。その当時、田中先生は既にノートパソコンを持ち歩いており、通勤のバスの中でもノートパソコンを操作していたのが思い出されます。このような関係で、PA会の各種の幹事を引き受けるようになり、最終的には、

2004年に日弁副幹事長、2006年幹事にPA会幹事長を拝命いたしました。

日本弁理士会の活動としては、2000年に会誌委員会委員長、2001～2002年に常議員、2004年にバイオ・ライフサイエンス委員会委員長、2009年に執行理事を務め、2011年に日本弁理士会副会長を拝命致しました。その後、2012～2015年に研修所副所長、2018年に不服審議委員会委員長を務め、2020年から現在まで関東会副会長を務めております。また、2013～2015年には工業所有権審議会試験委員(特許)を務めました。

日本弁理士会副会長を拝命した際には、会費月額1万5千円への減額や、総会委任状のオンライン提出を実現させたことは、大きな変革であったと思います。また、ここ数年は、関東会の副会長を拝命し、弁理士会館での無料相談、知財セミナーの開催、スタートアップ・中小企業への支援、自治体・学校等からの講師や相談員の派遣依頼など、弁理士への多くの要請に応えるべく事業を展開しております。4年前には弁理士紹介制度を発足させ、東京を中心に、紹介案件も増加しており、弁理士に対するニーズはまだまだ潜在していると感じさせます。

弁理士登録して今年で39年になりますが、その間、無事に弁理士業務を継続すると同時に、弁理士会務にも多数関与させて頂けたのは、PA会の先生方、その他日本弁理士会及び弁理士制度を支えてきた方々のサポートのおかげと考えておりますので、今までの会務経験を常議員として会務活動に還元すべく精一杯尽力する所存ですので、よろしくご支援の程お願い申し上げます。

(文書責任者：坂本智弘)